

主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合う生徒の育成を目指して

ー単元学習計画の作成・活用と自己の学びを追究する時間の設定を通してー

白石市立福岡中学校 高野 弓絵

1 はじめに

ここ数年、本校では海外の中学生とのオンライン交流の機会が増えている。これまで学んできた英語を用いて海外の生徒と対話をする体験は、英語を学ぶ意欲を高め、異文化理解やコミュニケーション能力の育成につながっている。

実態調査から、2学年の生徒の「話すこと[やり取り]」に対する抵抗感はそれほどないものの、約半数の生徒がやり取りの継続・発展や即興性に関して不十分だと感じていることが明らかになった。また、以前実施した中国・上海市の中学生とのオンライン交流会では、双方の質問は一問一答に終わり、主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合うまでには至らなかった。

そこで英語によるやり取りの面白さを体感してほしいという願いから、「話すこと[やり取り]」に焦点を当てて研究を進めることにした。

2 研究の内容と方法

中教審の答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』によると、個別最適な学びとして「個に応じた指導」の充実を図ることが求められている。個の認知特性や学習進度に合わせた指導、生徒自身が設定する目標に向けた学習調整が、主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合う生徒の育成につながるのではないかと考え、「話すこと[やり取り]」領域において、以下の手立てを講じて研究を進める。

(1) 単元学習計画の作成・活用

生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにするために、単元の初めに「話すこと[やり取り]」における目指す姿を踏まえた個別の単元学習計画を立てさせる。

また、一単位時間における「話すこと[やり取り]」の達成状況を単元学習計画に記録させ、生徒自身に自己の変容を意識させたり、次時の学習課題を明確にさせたりする。

(2) 自己の学びを追究する時間の設定

生徒が個の認知特性や学習進度に応じて学習できるようにするために、自己の学びを追究する時間を設定する。その際に活用できる具体的な教材として、デジタル教科書や対話表現集¹⁾、ALTによる映像資料などを生徒用タブレットで共有し、生徒が自由

に活用できるようにする。単元を通して、準備した教材を使った学習方法を紹介し、自分に合った学習方法を見付けさせる。

なお、以下の方法で効果検証を行う。

- ① 授業内で生徒の様子を見取る。
- ② パフォーマンステストを実施し、変容を見る。
- ③ 意識調査を行う（5月、11月に実施）。
- ④ オンライン交流会で生徒の変容を見る。

3 授業実践 I

(1) 実践内容

授業実践 I は以下の単元学習計画で行った。

① 単元名「Unit3 My Future Job」

（東京書籍 NEW HORIZON English Course 2）

② 単元の目標

将来の職業について考えるために、自分の得意なことやしてみたいことなどを整理して話したり、相手のことをより深く知るための質問をしたりすることができる。

③ 単元学習計画（実際に生徒が作成したもの。太枠内は生徒の記述）

段階	内容・言語材料	できるようになること	記録	コメント
1	①単元の学習の見通しを持つ。 ②ループリックの「3つの条件」をみんなで決める。 ③身近な話題で対話をして、今の対話レベルを把握する。			
2	A I に関する記事を読み、何かをする目的を伝え合う。 ※to不定詞の副詞的用法「...するために」	今までに学んだ単語がすぐに出てくるようにしたい。		
3	新しいタブレットを購入する場面で、それを使う目的を伝え合うために、自分で学んだ表現を用いてやり取りをする。 ※to不定詞の副詞的用法「...するために」	対話をするときに、相手の目を見て、聞こえやすくなりたい。		
4	職業に関するメグと朝美の対話文を読み、感情とその原因を伝え合う。 ※to不定詞の副詞的用法「...して～（感情）」	英語をすぐに暗記できるようにしたい。		
5	将来に向けて自分が頑張っていることを伝え合うために、メモを基にしてやり取りをしたり、即興で質問をしたりする。	プリントをなるべく見ずに対話に適した反応をできるようにしたい。		
10	【パフォーマンステスト】 将来の職業について考えるために、自分の得意なことやしてみたいことなどを整理して話したり、相手のことをより深く知るための質問をしたりする。	自己アピール文を考え、聞かれそうな質問に対する答えも考える。さらにその考えた文を暗記できるように読む練習もする。		

④ 具体的な手立て

単元学習計画（Google スプレッドシートで作成）を生徒と共有し、教師の助言により、個々の計画が常に書き換えられるものにする。

1回目のやり取りを終えて明らかになった課題を解決させるために、自己の学びを追究する時間を設定する。また、「対話表現集」「対話映像」「対話の具体例」「質問例シート」「職業マップ」などの教材を用意し、必要な生徒がそれらを自由に選択し、活用できるようにする。

(2) 授業実践Ⅰの結果

① 授業内での見取りから

第1時で、本単元で学ぶ内容について見通しを持たせた後に単元学習計画を立てさせた。しかし、生徒が記入する学習計画の欄を「できるようになること」としたために、生徒は目指したい自分の姿を記述していた。そこで、具体的にどのような学習が必要なのかを書かせるために、単元の途中から「できるようになるためにすること」に変更し、具体的な学びを書くよう指示し、学習計画を修正させた。

自己の学びを追究する時間では、相手に伝えるための表現を調べたり、対話映像を見てやり取りを続けるための表現を学んだりしていた。1回目のやり取りで即興で質問をしていた生徒は少なかったが、質問例シートの活用を促したところ、2回目以降のやり取りでは、多くの生徒が質問例シートの中から聞いてみたいことを選んで質問することができた。

② パフォーマンステストの結果から

「将来の職業について考えるために、職場体験先を決める面接の場面で、得意なことや好きなことなどを尋ねたり答えたりする」というパフォーマンステストを行った。

「思考・判断・表現」の観点では、3つの条件（①自分の得意なことやしてみたいことについて述べている。②相手のことを知るために質問をしている。③対話表現を使って対話を継続させている。）を満たしてやり取りをしていればBとした。結果を見ると、73.6%の生徒が、職業に関することや普段頑張っていること、興味を持っていることなどをやり取りの中に含めながら、自分のことについて3文以上話すことができていた。また、表1の下線のような一言感想や関連する質問をする生徒も見られた。

表1 実際の生徒のやり取り

S1: Why did you come here?
S2: I came here to become a teacher.
S1: Please tell me about yourself.
S2: I like to study English. I'm interested in America. I want to go to America. I like to play table tennis, too.
S1: Who is your favorite table tennis player?
S2: Uh ... I like Jun Mizutani.
S1: Me, too. Why do you like?
S2: He is very cool. He has a strong heart.

(3) 考察

個別の単元学習計画を生徒自身が作成したことで学習の見通しを持って取り組むことができた。また、振り返りを書くことで、自己の学習状況を把握し、次時の課題を設定したり、単元学習計画を書き換えたりと主体的に学習に取り組む姿が見られた。しかし、「できるようになるためにすること」の記述が具体的にでなく、どのようなことを書けばよいのか悩む生徒がいた。

学びを追究する時間を設定し、学習方法や教材を提示したことで、生徒は自分が伝えたいことをどのように表現すればよいか調べたり、対話を継続・発展させるにはどうすればよいかを考えたりするようになった。その結果、主体的に自分の思いや考えを伝え合う姿が見られた。しかし、提示した教材が多すぎたために、生徒はどれを使うべきなのか迷っていた。また、話し手による発信が十分でなかったために、聞き手は質問をしたり感想を述べたりすることが難しく、対話を継続・発展させることができなかった。

4 授業実践Ⅱ

(1) 実践内容

授業実践Ⅱは以下の単元学習計画で行った。

① 単元名「Unit5 Universal Design」

（東京書籍 NEW HORIZON English Course 2）

② 単元の目標

ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、調べたことについてメモを基に話し、相手に質問をしたり、相手からの質問に即興で答えたりすることができる。

③ 単元学習計画（実際に生徒が作成したもの。太枠内は生徒の記述）

段階	内容・言語材料	できるようになるためにすること	読取	コメント
1	①単元の学習の見通しを持つ。 ②ループリックの「3つの条件」をみんなで決める。 ③身近な話題で対話をして、今の対話レベルを把握する。			
2	ユニバーサルデザインのイベントのお知らせを読み、ものの使い方などを伝え合う。 ※how to+動詞の原形「どのように…するか」 ※what to+動詞の原形「何を…すべきか」	ユニバーサルデザイン具体例を出し、どのような場合で生かされているかを伝える。		
7	これまで読んだ本文の中から、何かを紹介するときに参考にできそうな表現を学ぶ。	相手に尋ねる時の表現と自分の考えを詳しく伝えられるものを選ぶ。		
8	身のまわりのユニバーサルデザインについて、メモを基に伝えたり、相手の質問に答えたりする。	話が弾むように、学校でのユニバーサルデザインを中心に考える。		
9	ロナルド・メイスの功績について書かれた文章を読み、ユニバーサルデザインが大切な理由を伝え合う。	理由という意味のreason という単語を使う。		

10	身のまわりのユニバーサルデザインについて、相手への質問を考えたり、想定される質問の答えを考えたりする。	質問例シートを参考に質問をいくつか準備しておく。		
11	【パフォーマンステスト】ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、工夫点や自分の考えを整理して話したり、相手の質問に即興で答えたりする。	聞かれそうな質問の内容を考え、答えをいくつか作っておく。		

④ 具体的な手立て

単元学習計画に「できるようになるためにすること」を書かせるために、具体的な学び方の例を示したり、工夫が見られる学び方をしている生徒の取組を紹介したりして、学ぶ目的と具体的な学び方を記述させる。

個々の生徒が抱える様々な学習課題に対応するために、「話すこと〔やり取り〕」における困り事とそれを解決するための学習方法や教材を示したフローチャート（図1）を提示し、自分にとって必要な学習方法や教材が一目で分かるようにする。

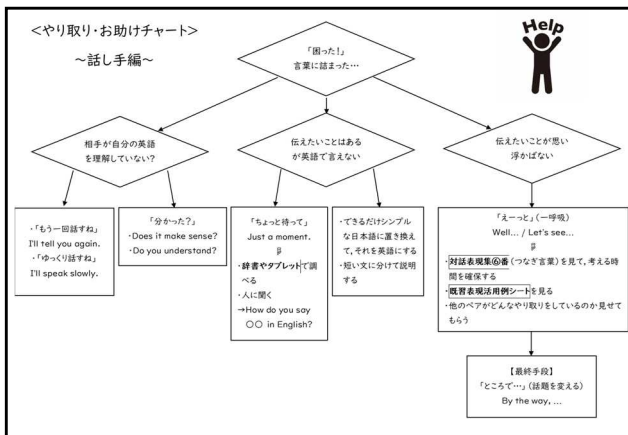


図1 やり取り・お助けチャート～話し手編～

(2) 授業実践Ⅱの結果

① 授業内での見取りから

授業実践Ⅰでは、学びを追究する時間が始まってから何をしようか考える生徒が多かったが、授業実践Ⅱでは、すぐにタブレットを開いて調べ始めたり、「やり取り・お助けチャート」に沿って必要な教材を選んだりしていた。また、読めない単語があればタブレットに入力して音声聞いて覚えたり、自分が考えた英文を入力して、正しく認識されるか確認したりしていた。

② パフォーマンステストの結果から

「ユニバーサルデザインを紹介するイベント会場で、ユニバーサルデザインの良さを知ってもらうために、工夫されている点や自分の考えを整理して話したり、相手の質問に即興で答えたりする」というパフォーマンステストを行った。

「思考・判断・表現」の観点では、3つの条件①ユニバーサルデザインの工夫点について述べている。②自分の考えたことや感じたことを伝えている。③相手に質問したり、対話表現を使ったりして対話を

継続させている。)を満たしてやり取りをしていればBとした。B評価以上の生徒は84.2%で前回よりも10.6ポイント増えた。

実際のやり取りでは、どの生徒もユニバーサルデザインの工夫点や自分の考えを伝えることができていた。また、聞き手の関心を引くために写真を指さしたり、理解してもらうためにジェスチャーをしたりするといった工夫も見られた。一方、聞き手は相手の話をうなずきながら聞いたり、相づちを打ったりしていた。表2の下線からは、聞き手が話し手の説明を理解していることを伝える表現をしていることや、話し手の思いや考えを聞き出す質問をしていることが分かる。

表2 実際の生徒のやり取り

S1: Hello.
S2: Hello.
S1: Look at this picture. (写真を指さして) This is the toilet handrail.
S2: Yeah.
S1: Thanks to the handrail, we can safely use the toilet. This toilet has very... あっ, has some very helpful features.
S2: I see.
S1: Used by the elderly and people with bad legs. (足をさするジェスチャー)
S2: Oh!
S1: It also helps prevent falls. The handrail is cylindrical, making it easy to grip.
Do you have any questions?
S2: Oh. Ah, do you think it is easy to use?
S1: Oh... yes.
S2: Oh, thank you. Do you like it?
S1: Oh... so-so.
S2: Ah. (お互いに笑い合う) Oh, I see. How much is it?
S1: Ah... maybe, thirty thousand yen.
S2: Oh, I see. Thank you.
S1: Thank you.

(3) 考察

具体的な学び方の例を示したことにより、生徒の単元学習計画の「できるようになるためにすること」の記述が授業実践Ⅰより具体的になっていた。

「やり取り・お助けチャート」に沿って、必要となる教材を選んで活用していた。また、事前にワークシートにユニバーサルデザインの工夫点や自分の考えを整理させておいたことにより、話し手の発話量が増え、聞き手は関連する質問や感想を述べることができるようになった。

5 研究の成果と課題

(1) 効果検証

① 意識調査の結果から（5月、11月実施）

表3 意識調査結果（A：できている B：どちらかといえ
ばできている C：どちらかといえどできていない D：できていない 単位は人）（調査人数19人）

1 即興で自分の考えを伝えたり質問をしたりしている。			
A 0→3	B 9→12	C 10→4	D 0→0
2 一問一答で終わらず、話を続けている。			
A 1→5	B 9→9	C 9→5	D 0→0
3 レスポンス（相づち、表情、一言感想）をしている。			
A 7→10	B 8→8	C 4→1	D 0→0
4 自分なりの学習計画を立てることができる。			
A 2→6	B 10→9	C 6→3	D 1→1
5 英語で対話する力を身に付けるために、自分に合った学び方がありますか。			
ある 19		ない 0	
○語彙や英語表現の定着 ・ひたすら書く ・英語を聞きながら口に出して練習する ・教科書を何度も読む ○考えの整理や表現の吟味 ・教科書の文を参考にして自分のことに置き換える ・自分で考えた文を翻訳機能に入力し、正しい日本語に変換されるか確認する ・翻訳機能で調べてから分かりやすい言い方に言い換える ○対話練習の方法 ・友達や先生と話す ・自分で何度も話す練習をする			

設問1から3によると、即興性や対話の継続・発展、相手意識の面で肯定的な回答が増えた。これは、Small Talkの際に「やり取り・お助けチャート」「対話表現集」「対話映像」を用いて、どのような場面でそれらの表現を使うのかを示して練習させたことにより、実際のやり取りでも使おうとするようになったためではないかと考えられる。

設問4によると、自分で学習計画を立てられるようになった生徒が増えている。Unit3から継続して学習計画を立てさせていることの表れではないかと推察できる。

そして、設問5では全ての生徒が「自分に合った学び方がある」と回答した。自己の学びを追究する時間にいろいろな学び方を試し、その中から自分に合った学び方を見付けていたことがうかがえた。

② オンライン交流会の様子から

11月4日と29日にオーストラリアの中学生とオンライン交流会を実施した。この交流会では日本の観光地や伝統的な遊び、白石市や学校の紹介に加えて、将来の夢や日本のユニバーサルデザインについて発表した。ユニバーサルデザインの具体例として、スロープ、シャンプーのボトル、角の多い消しゴム、紙幣の識別マークを挙げて、画像や実物を見せながら説明し、オーストラリアのユニバーサルデザインについても尋ねることができた。1学年時の交流会ではやり取りが一問一答に終わったが、今回は質問によってはやり取りが数回続いたものもあった。

交流会後のアンケートでは、全ての生徒が「楽しめた」と回答した。感想からは「自分の話が通じたことや相手の反応がうれしかった」「みんなでたくさん質問をしてやり取りをできたのが楽しかった」「本当にジェスチャーを使うんだと驚いた」「英語のスキルを高めるには現地の人と話すことが大切」「また交流したい」など、やり取りの面白さを実感し、学習意欲が高まったことがうかがえた。

(2) 研究の成果

① 単元学習計画の作成・活用

単元学習計画の作成・活用を通して、生徒は単元全体の見通しを持って学ぶようになった。また、一単位時間における「話すこと[やり取り]」の達成状況を振り返らせたことで、次時以降の学習計画を見直し、修正するようにもなった。生徒が立てた学習計画は、単元を重ねるごとに具体的になり、自分で決めた計画だからこそ、主体的に学習するようになったと言える。

そして、個別の声掛けやコメント機能で生徒の頑張りを励ましたことにより、間違いを恐れずにやり取りを楽しむ姿が見られるようになった。

② 自己の学びを追究する時間の設定

自己の学びを追究する時間において、様々な方法で必要な学びを深めようとする姿が見られた。その中で「英語を聞いて覚えれば自力で話すことができる」「実際に書いてみると覚えられる」など、自分に合った学習方法に気付くようになった。これらの姿から、生徒によって学び方にも個性があることが分かった。それに応じて学習方法を助言したり多彩な教材を準備したりすることが「個に応じた指導」の充実を図ることなのではないかと考える。

(3) 今後の課題

単元学習計画に具体的な学びを書かせ、自己の学びを追究する時間に様々な教材を提示して個の学びを深めさせたことにより、生徒は伝えたいことを整理し、やり取りをするようになった。しかし、事前に準備した原稿をそのまま読んでしまう生徒もおり、話の流れに応じて対話を展開していくことについては課題が残る。そこで、今後の課題の方策として、次の2点を挙げる。

- ① 事前の準備なしで、即興でやり取りをする力を育てるために、Small Talkを活用し、生徒の身近なテーマで会話をする場面を設ける。
- ② パフォーマンステストの際に原稿に頼らずにやり取りできるよう、メモや写真から英文を想起させる練習を取り入れる。

今後も継続して2つの手立てを講じた授業を行い、主体的に英語で自分の思いや考えを伝え合う生徒の育成を目指していきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 宮城県総合教育センター：令和3年度長期研修専門研究外国語教育研究グループの成果物 2021

【図表等の承諾について】

単元学習計画は生徒の実際の記述、表1と表2はパフォーマンステストにおける生徒の発話記録である。研究の目的にのみ使用することとし、生徒の保護者及び所属校の校長から使用許諾を得た。